

3月の新着本

3月9日(土)貸し出し開始

【一般図書】

(新着本情報は毎月末更新の「並木北コミュニティハウス」[ホームページ](#)で)

いい女、ふだんブツ散らかしており	阿川 佐和子	父・阿川弘之の葬式、認知症の母の介護、還暦過ぎでの結婚…。激動の日々はつづく。これがアガワ流人生の戦い方。「さようならのあとに」から「遅咲きシクラメン」までを収録。
境内ではお静かに 縁結び神社の事件帖	天祢 涼	大学を中退した坂本壮馬は、兄が神職をつとめる横浜の神社に転がり込み働くことに。信心ゼロの壮馬の指導役は、見ほれてしまうほどの美少女・久遠雫。様々なことを引き金に起こるトラブルに壮馬が体当たりし、雫が解き明かしていく。趣向溢れる本格ミステリー。
有楽齋の戦	天野 純希	怯えて、喚いて、逃げる…。霸王信長の弟・織田有楽齋は「本能寺の変」「関ヶ原の戦い」「大坂の陣」でどう戦ったのか。戦国三大合戦を有楽齋ともう1人の視点で描く、連作短編集。
雪の階(きざはし)	奥泉 光	昭和10年、春。女子学習院高等科に通う華族の娘・笹宮惟佐子は、遺体で見つかった親友・宇田川寿子の心中事件に疑問を抱く。調査をたのまれた新米カメラマンの牧村千代子は、寿子の足取りを辿り、東北本線に乗り込んだ…。ミステリーロマン。
ひと	小野寺 文宣	女手ひとつ、学食で働きながら僕を東京の大学に進ませてくれた母。——その母が急死した。柏木聖輔は二十歳の秋、たった一人になった。奨学金を返せる自信はなく、大学は中退。そんなある日の午後、空腹に負けて吸い寄せられた商店街の総菜屋で、買おうとしていた最後に残った五十円コロッケを見知らぬお婆さんに譲った。それが運命を変えるとも知らずに……。
いくさの底	古処 誠二	第二次大戦中期、のどかなビルマ山岳地帯の村で起きた青年将校殺し。私怨か、内紛か…。疑心暗鬼に陥り、村は分断を余儀なくされていく。人間倫理の根源を足もとから問う戦争ミステリー。
冥界からの電話	佐藤 愛子	死んだはずの少女から掛かってくる電話。いったいこれは何なのだろう…。死は人生の終点ではない。肉体は消滅しても魂は滅びない。死後の世界の真実を伝えたい、95歳の著者からの渾身のメッセージ。
宴の前	堂場 瞬一	現職知事の後継者が、選挙告示前に急死。後継候補を巡る争いに、突然名乗りを上げたオリンピックメダリスト、地元フィクサーや現職知事のスキャンダルを追う記者の思惑が交錯する。「地方の王様」を決める熾烈な争いを描く、選挙小説の新機軸。
救済 SAVE	長岡 弘樹	放火犯として疑われた少年・信は、夏休みの予定を時間割にして書き出す。それは容疑と関わりが? (「夏の終わりの時間割」)。巧妙に仕掛けられた伏線、トリック、ラストに驚嘆。心を揺さぶる6篇の作品集。
蝶のゆくへ	葉室 麟	「蝶として飛び立つあなた方を見守るのがわたしの役目」と語る校長・巖本善治のもと、女子教育の向上を掲げた明治女学校。学びやの一員となった星りょう(後の相馬黒光)は、自分らしく生きたいと願い、葛藤する新時代の女性たちと心を通わせていく。
ある男	平野 啓一郎	彼女の夫は「大祐」ではなかった。夫であったはずの男は、まったくの別人であった…。人はなぜ人を愛するのか。幼少期に深い傷を負っても、人は愛にたどりつけるのか。人間存在の根源と、この世界の真実に触れる文学作品。
老人の取扱説明書	平松 類	まずは、老人の困った行動の原因を「認知症」や「頑固な性格」だと思わないこと。老化とはどういった現象なのかを医学的に明らかにし、実際に高齢者にどう接すればいいのか、そして、高齢者本人はどういう行動を起こせばいいのかを解説する。
十三階の神	吉川 英梨	警察庁の公安秘密組織「十三階」は、かつて地下鉄テロを起こしたカイラス蓮昇会教祖の死刑執行が迫り、揺れていた。そんなとき、母親がカイラス分派団体に入信してしまい、律子は単独捜査に乗り出す。緊迫のスパイサスペンス「十三階の女」シリーズ第2弾。

☆ NHKテレビテキスト「きょうの料理3月号」「スタッフおすすめ雑誌」は閲覧できます。

なお、4月新着本は(4月13日)から貸出いたします。

☆ 児童図書・絵本は、別途掲示しています。